

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700271		
法人名	有限会社ケアステーションせたな		
事業所名	瀬棚高齢者グループホームあさなぎ		
所在地	久遠郡せたな町瀬棚区本町792番地2		
自己評価作成日	令和2年9月3日	評価結果市町村受理日	令和2年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171700271-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民やボランティアの方との交流を大切なものと考え、地域の行事には積極的に参加しており、ボランティアの方には見守りや付添いで一緒に参加していただいております。ホームの行事にはボランティアの方や運営推進会議の委員さんにも参加していただき、お手伝いや貴重なご意見をいただいております。近隣の方がホーム周りの草取りやホームで使えるような食器類を譲ってくれるなどいろいろな面で支えていただいております。入居者の皆さんが四季を肌で感じていただくため、季節ごとの行事で外出の機会を創り、楽しんでいただいております。職員は笑顔で優しく接するなど、穏やかな環境を創ることを心がけており、できるだけBPSDが出ないように関わるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「瀬棚高齢者グループホームあさなぎ」は、瀬棚温泉前バス停近くの自然豊かな瀬棚町の中心部に立地している。近くには商店や交番、診療所や温泉もあり生活の利便性が高い事業所である。居間や食堂は大きな窓に面した明るく開放感のある造りで、利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるように工夫している。定期的に掃除や洗濯、傾聴ボランティアを受け入れたり、地域で開催される行事に参加して保育園児の出し物や地元出身歌手の歌謡ショーを楽しんでいる。近隣住民から魚や野菜、果物などの差し入れを受けるなど、日常的に外部の方々と交流を深めながら地域に根差したグループホームづくりに取り組んでいる。代表者と管理者は日頃から職員の意見や提案に耳を傾け、ケアや運営に活かしながら働きやすい職場環境の整備に努めており、離職率も低い事業所である。食事面ではホテルで外食したり誕生日に好きな出前を取るなど、楽しく食事ができるように工夫している。普段から近隣を散歩したり、山や海へのドライブ、お花見や紅葉狩り、冬季も郷土館に出かけるなど、年間を通して積極的に外出している。管理者を中心に全職員で優しい笑顔で話しかけ、利用者一人ひとりの変化や状況を共有しながら各利用者のペースを大切に、ゆったりと過ごせるよう家庭的で温かなケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合っって作った理念があるほか、年度ごとに特に取り組むべき年度目標も話し合っって決め、共有して日々のケアにつなげております。	「利用者の皆さんが地域にとけこみ、地域の方々とのおふれあいが持ち続けられるよう支援していきます」という運営理念を事業所内の要所に掲示している。毎年、重点目標を掲げ内部研修で理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、町内会行事にも積極的に参加しております。買い物や散歩の際も声をかけていただくなど交流を持っておりますが、コロナ禍の影響で行事も無く、買い物等にも行けない状況にあります。そうした中ですが、地域の方が通りかかった際に、窓越しに子供やペットの犬を見せてくれるなどの配慮をしてくれております。	ボランティアセンターで開催される地域行事に参加して保育園児の出し物を見たり、温泉施設での歌謡ショーを楽しんでいる。中学生が職業体験で事業所を訪れ、一緒に折り紙や会話をすることもある。定期的に掃除や洗濯、傾聴などのボランティアが訪問して利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あさなぎの紹介や認知症の相談を受けていることを町の広報誌で周知している。また、認知症サポーター養成講座の出前講座の受け入れなどを行政にも周知しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の利用状況、活動状況、ヒヤリハットや事故報告などを説明しております。避難訓練に参加した委員より今後も近隣住民の協力が大切であること、重度化した利用者の避難のためのスロープ設置の必要性など貴重なご意見が出され、反映されております。	地域役員や総合支所、地域包括支援センター職員の参加を得て事業所報告やヒヤリハット、感染症予防対策などを話し合っている。今後は参加できない家族にも会議内容が分かりやすいように議事録に質疑応答なども記入したいと考えている。全家族に会議案内は送付していない。	メンテーマなどを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問などを事前に聞き取りながら会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席やホームの行事に参加、協力していただいております。ホーム側からは事業所の状況などを伝え、ご意見をいただいております。また、何かあった時は、その都度連絡を取り合っております。	管理者はサービス担当者会議に出席したり、地域包括支援センターの依頼を受けて認知症サポーター養成講座の講師を務めている。福祉事務所の担当者が来訪した時は、利用者本人の様子を伝えながら相談をすることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、身体拘束廃止・虐待防止指針を策定するとともに、内部研修を開催し、全職員を対象に指針、マニュアルの周知徹底と身体拘束廃止についての理解と、取り組む姿勢の醸成を図っております。	「禁止の対象となる具体的な行為」を身体拘束廃止・虐待防止指針に記載している。法人事業所合同で身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し、資料などで全職員が確認している。今後は勉強会や委員会の資料を分かりやすく整備し、日々のケアに活かしていきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、身体拘束廃止・虐待防止指針を策定するとともに、内部研修を開催し、全職員を対象に指針、マニュアルの周知徹底と虐待防止についての理解と、取り組む姿勢の醸成を図っております。		

瀬棚高齢者グループホームあさなぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に管理者等が参加し、報告書にまとめ、その内容を職員全員が確認しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時におけるご家族説明マニュアルを活用するなど、不安のないように十分な説明を行い、理解が得られるように努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会で意見を伺う機会を設けております。ご意見箱も設置している他、ご家族が来所された際にお話を聴かせていただくようにしており、できるだけ運営に反映させるよう検討させていただいております。	家族の来訪時や電話で意見や要望を聞き取り、「家族との話し合い記録」に記入している。「あさなぎだより」を毎月発行し、利用者の近況や様子を写真などで伝えている。家族からは率直な意見も出されており、話しやすい環境作りを行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を聴く機会を設けております。また、何かあればその都度話を聞いて提案を取り入れております。その他に年1回代表者と職員との個別面談があり、意見や提案を聴く機会を設けております。	代表者や管理者は普段から職員の意見や提案を聞き取り、ケアや運営に活かしている。職員の提案で利用者が使いやすいように足台を制作して机と椅子の高さを調節したこともある。職員は利用者担当や献立、畑などの役割を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や各職員の努力、資格習得への取り組みを把握、評価をし、給与や手当に反映させております。また、介護職員処遇改善加算や特定介護職員等処遇改善加算の支給においても資格や経験年数に応じたランク表を設け、向上心を持って働けるように努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、個々の資格や経験年数に合わせ、なるべく多くの職員が受講できるようにしております。外部研修を受講した職員が講師となり内部研修を実施しておりますが、コロナ禍のため現在は外部研修等は控えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域医療と介護の連携推進のための懇談会に参加しており、同業者や医療関係者と交流する機会ができております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が訪問し、ご本人から話を良く聴いて、不安や困っていることや要望等を受け止め、安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を受け止め、事業所を見ていただくとともに、事業所としての対応を事前に話し合うように努めています。必要時は家庭訪問をして話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いやご本人の心身の状況を確認し、必要な支援を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという考えを職員で共有し、普段から調理や畑仕事で職員に教える場面を多く持つように、セッティングや声かけに配慮しております。また、常に感謝の気持ちを伝えるよう心掛けております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化などがあれば随時ご家族に相談して対応しております。できるだけ訪問してもらったり、行事に参加していただき、ご家族の思いを受け止め、共に支えあう関係を築けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の行事や散歩、買い物などの外出を通して、知人や友人に会う機会を作り、関係が途切れないよう努めています。また、子供連れの方や犬の散歩をされている方には、時には声をかけてホームに入っていたり、交流しております。(今は、窓越しでの交流となっております。)	友人や知人が訪問する機会は殆ど無くなったが、親族から手紙が届く方もいる。職員と一緒に買い物や馴染みの美容室に行くこともある。家族と一緒に自宅に帰ったり、お墓参りやお寺に出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の言動から関係性や相性、その時々々の状況を把握し、申し送り等で職員が共通理解の下で、対立や孤立がないように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院での面会で、ご本人の状況を確認したり、町内でご家族に会ったときは状況等を聞き取るようにしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望等については、言葉だけでなく表情や行動からも思いの把握に努めるとともに、ご家族からも情報を得ながら意向の把握に努めております。困難な場合は、ご本人ならどのように思うのか、を考えております。	職員は会話や仕草、表情などから利用者の思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式シートを活用して生活歴や趣味、嗜好などの情報を得ているが、追記や更新は行われていない。	利用者の現状が把握できるようにセンター方式シート(B-3)を活用し、変化に応じて追記や更新を行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族からの情報及びこれまで入所されていた施設からの情報などで、馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の観察や関わりにより、ご本人の心身の状態、有する能力等を見極め、個人記録に記すことで現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いやご家族の意向を確認しながら、ミーティングにおいて日々の観察をもとにモニタリングなど、職員で話し合いの上で介護計画を作成しております。	利用者担当職員の評価を基に、全職員で検討して6か月ごとに介護計画を作成している。介護記録に変化や様子を記入しているが、計画内容番号と介護記録番号の統一が不十分な面もあるので更に分かりやすい記載方法にしたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やご本人が話されたこと、心身の変化の気づきを個人記録に記し、申し送りノートでも情報共有するとともに、介護計画の見直し時の評価や新たな課題にも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の気分転換の外出に付き合うことや畑仕事の見守り等を行うとともに、ご本人の状況やご家族の希望に応じて通院や送迎、食事内容の検討など必要な支援は柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉施設やボランティアセンター、警察、消防など地域資源を把握し、日頃から連携をとっております。また、ボランティアセンターが行う行事への参加をしておりますが、現在はコロナ禍のため行事等が行われておりません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人やご家族が希望するかかりつけ医としており、外科や専門医などの受診もかかりつけ医の紹介を得ながら対応しておりますが、状況に応じて直接専門医を受診するなどの対応もしております。また、かかりつけ医による往診も受けております。	希望者や受診が困難な利用者は協力医療機関の往診を受けている。受診は看護師や職員が同行して本人の健康状態を伝え、主治医と連携しながら適切な医療支援につなげている。受診状況は個別に「医療記録」に記入している。	

瀬棚高齢者グループホームあさなぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調不良などの気づきや情報を職場内の看護職員に報告、相談できており、必要時には、受診や看護を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はご家族と連携し、安心して治療ができるようにしております。また、主治医の説明時は同席させていただき、ご本人やご家族、相談員と相談し、早期に退院ができるよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてご本人やご家族の意向に沿えるよう話し合いをし、ホームの対応の限界を理解していただいた上で同意をいただいております。また、関係機関との連携にも努めております。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って事業所の方針や可能な対応について説明している。利用者の身体状況の変化に応じて主治医と家族、事業所の方針を話し合っている。開設後、数人の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、緊急時の対応マニュアルを作成し、職員間で共有しております。消防署にお願いし、普通救命講習を全員受講するようしており、3年毎に再講習も受講できるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、近隣住民や警察署にも参加していただき、避難訓練を年2回実施しております。ほかに月に1回職員間でも避難訓練を行っております。また、町が実施する自然災害訓練にも参加するようにしております。	毎月、昼夜の火災を想定した自主訓練を行い、うち年2回は地域住民や消防署の協力を得ている。職員は救急救命講習を定期的受講し、災害備蓄品も整備している。災害マニュアルの整備やケア別の対応についての検討は不十分な面もある。	災害別のマニュアルを整備するよう期待したい。また、全職員で地震時のケア別の個別対応について話し合い、マニュアルに綴るよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、ご本人にわかりやすく、通じる言葉かけをし、不快な思いをしないような対応を心がけております。	言葉遣いや声のトーンに配慮しながら本人の心地よい呼び方を優先し「さん」付けで呼んでいる。羞恥心を伴う介助はプライバシーを守りながら、プライドを傷つけないように十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせて、掃除や家事の手伝い、買い物等の声かけ、入浴やゲームへの参加の声かけにおいては、自己決定しやすいような問いかけの工夫をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大事にしながらも散歩や買い物などの外出の提案をしたり、お話を楽しむ時間を持つたりするなど、希望に沿った支援を行うよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室に行けるよう支援しております。ホーム内でも希望により髪染めをしたり、外出時にはおしゃれ着に着替えたり、化粧をするなどお手伝いしております。		

瀬棚高齢者グループホームあさなぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの他、食事の動作や時間、量を把握して提供しております。ご本人のできることを見極めて食事作りや片付けに参加していただいております。また、月に1回出前の日を設け、ご本人が好きなものを食べてもらっております。その他にも、季節に合わせた旬のウニや土用の日にはうなぎを食べていただいております。	献立は地元の新鮮な旬の食材や家庭菜園で収穫した野菜を使い、職員が作成している。フライのパン粉付けなどの下ごしらえや盛り付けは利用者が担当している。おやつホットケーキや蒸しパン作りは職員と一緒にいき、誕生日には本人の好きな赤飯やちらし寿司でお祝いしている。出前や外食も取り入れて食欲を高める工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は個人記録に記し、病気や体調、習慣に応じた支援をしています。また、体重の増減に合わせた食事量の提供をしています。水分摂取が消極的な入居者さんにはゼリーや旬の果物などで水分補給してもらうよう工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時は口腔ケアを行っております。昼食後は全員には行ってはおりませんが、汚れや口臭が生じないように配慮しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯や習慣を把握し、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をし、トイレでの排泄を支援しております。	自立している利用者もいるが、おむつやパッドを使用している方も皆の視線を外しさりげなく誘導し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間は安全面を考慮してポータブルトイレを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や食物繊維の多い食事を取り入れるようにするとともに、歩行など運動への働きかけなどもしながら自然排便を促すよう取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者さんのその日の希望を確認したり、体調や気分の良い時にあわせて声かけして、入浴していただいております。可能な方は、年に1度近くの温泉に入浴する機会を設けておりますが、現在はコロナ禍のため、控えております。	入浴はその日の体調や好みの湯加減、順番など本人の希望を優先して足浴も混ぜながら週2～3回支援している。入浴を拒む場合は無理強いせず、タイミング良く声かけをしている。湯船に浸りながら職員と昔話をして入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときには無理に眠りを強要せず、職員が話し相手になったり、温かい飲み物を飲んでもらったり、居室の温度や湿度にも注意するなどの支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を綴り、副作用などを把握できるようにしております。服薬支援については、薬の受け渡しなどにおいて、声出し確認を励行し、服薬ミスゼロを目指しております。また、服薬後等においては症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、買い物やドライブ、散歩、読書、編み物、手工芸など得意なことをやっていただき、役割や楽しみにつなげたり、気分転換をしていただいておりますが、現在はコロナ禍の影響で買い物には行ってはおりません。		

瀬棚高齢者グループホームあさなぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご本人の気分や希望に合わせて買い物やドライブ、散歩、外気浴を楽しんでいただいております。花見や紅葉狩り、レストランでの外食、温泉入浴などに出掛ける機会を設けておりますが、現在は、コロナ渦の影響で人が多くいる所への外出は控えております。	90才を超える利用者も多いが体調や気温を考慮して、できる限り日光浴や外気浴、近隣のドライブで気分転換やストレス解消をしている。歩行が可能な利用者は散歩を兼ねて近くの店への買い物など気軽な外出をしている。春のお花見や秋の紅葉狩りは全員で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かり、事業所が管理しております。希望に応じて週刊誌やおやつなどの買い物で使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでもご家族などに電話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのソファの配置を工夫し、一人ひとりが居心地の良いスペースを確保できるように支援しております。菖蒲飾りやクリスマスツリー、七夕飾りなどで季節を感じて頂いたり、月毎に季節が感じられるタペストリーもホールに飾ったり、季節感のある花を飾ったりしております。ご飯の炊ける匂いや茶碗を洗う音など生活感を取り入れる工夫をしております。	対面式の台所がある広い居間には程よく陽が入っている。廊下の手すりに濡れタオルをかけて高齢者に合わせた温度や湿度管理を行っている。居間のソファや共用空間の空きスペースで、気分や好みに合わせて一人でもゆっくり寛げるように工夫している。事業所内の装飾は季節感を大切に物で混乱を招かないようにスッキリとまとめている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやテーブルなどを配置し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者さん同士でくつろげるスペースを作っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っているものを持ち込んでいただいたり、ご家族の写真や人形などを飾ったり、仏壇を置いたりしてご本人の意向やご家族の思いも聞きながら居心地良く過ごせる居室になるよう配慮しております。	居室には大きなクローゼットが備え付けられている。使い慣れた家具、ベッドを持ち込み、直筆の書を表装して飾るなど、思い出の品や大切な物を身近に感じながらゆったりと生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下などには手すり、玄関には座って靴が履けるようにベンチを置くなど、自立した生活が送れるよう工夫しております。また、必要に応じて部屋など分かりやすいように表示しております。		

目標達成計画

事業所名 瀬棚高齢者グループホームあさなぎ

作成日：令和 2年 11月 11日

市町村受理日：令和 2年 11月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	参加できない家族に対し、質疑応答の意見や質問など詳細に記載した議事録を送付していなかった。また、全家族に会議案内を送付していない。	参加できない家族にも会議内容が周知できる介護報告書を送付する。また、会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問などを事前に聞き取りながら会議に反映させるようにしていく。	①家族に送る運営推進会議報告書(議事録)には、質疑応答や意見の内容を分かりやすいように記載する。ただし、自由な意見交換を求めていくため、個人名を出さないこととする。②全家族に対しては、毎月送っている「あさなぎだより」等と一緒に、運営推進会議の開催計画と意見や質問を常時受け付けていることを伝えていく。	3か月
2	23	利用者開始時にセンター方式シートを活用して生活歴や趣味、嗜好などの情報を得ているが、追記や更新は行われていない。	利用者の現状が把握できるようにセンター方式シートを活用し、変化に応じて追記や更新を行うようにしていく。	日常の会話や行動、仕草、表情などから入居者の思いや意向を把握し、センター方式シートに追記や更新を行っていく。	6か月
3	35	災害別のマニュアルの整備やケア別の対応についての検討は不十分な面もある。	想定される災害の個別マニュアルを整備する。また、職員ミーティングの際に地震時のケア別の個別対応について話し合い、マニュアルに綴るようしていく。	①想定される災害としては、地震と火災であるので、そのマニュアルを作成する。②ミーティングにおいて、地震時におけるケア別の個別対応について話し合い、マニュアルに綴る。	6か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。